
莉緒-たす-可南子-いこおる-莉可

有栖川 玲緒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

莉緒 - たす - 可南子 - いこおる - 莉可

【Nコード】

N2024Q

【作者名】

有栖川 玲緒

【あらすじ】

莉緒は親友の可南子に恋してしまう。

同じように可南子も莉緒に恋してしまうのであった。

「私……莉緒が好きなの……」

可南子はそう言うと、突然抱きついてきた。

可南子。青く澄んだ泉を思わせるような大きな瞳。透けるような白い肌は、夕日に照らされほんのりと紅く染まり、わたしの心を高鳴らせた。とても美しかった。誰もが認める、学校一の美少女、可南子の温もりを、今。私は身体全体に感じていた。

「可南子……私も好き」

可南子の温もりを感じながら。私は言った。私の顔は赤く。まるで蛸の様に赤く火照っていた。可南子だって同じだった。その顔が可愛くて。私の心臓がドクンとときわ大きな音をたてた。それからドキドキと波打つ鼓動。

どのくらい抱き合っていただろう。

どのくらい見つめ合っていただろう。

真っ赤に火照った顔。恥ずかしそうな瞳をゆっくり閉じていく可南子。

唇をゆっくりと優しく重ね合わせる。

可南子は強引に舌を――

「莉緒……恥ずかしい……？」

私は可南子に押し倒され、ベッドに横になっていた。強引に押し倒され、強引に服を脱がされた。下着ですら、脱がされた。だけど、

可南子は脱いでいない。そんなの不公平。

「可南子……寒い……」

私たちが横になっていた場所は保健室のベッドの上だった。誰かがきたらどうしよう。戸惑いを隠せない私の顔を可南子は優しく撫でた。

「莉緒の可愛い声……聞かせてね……」

「駄目……絶対に駄目っ……誰かきちゃうよ」

「大丈夫……もう放課後だし。誰も来ないよ」

可南子は優しく言った。

私の身体を優しく撫でた。

くすぐったかった。自然と声が出た。私の上に乗る彼女。私の身体を上から下へと撫でる可南子。

「莉緒の声……すごく可愛い」

「ば……ばか……」

私を撫でる手は温かかった。

可南子の優しい温もりを感じた。

「莉緒……大好きだよ……」

「私も……」

私の言葉を遮るように。可南子は唇をゆっくりと優しく重ね合わせてきた。

「可南子のばか……」

E
N
D

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2024q/>

莉緒-たす-可南子-いこおる-莉可

2011年1月19日03時50分発行